

第 9 回 宇治市都市計画マスタープラン検討部会 議事録

日 時	令和 3 年 7 月 19 日 (月) 午前 10 時 00 分 ~ 午後 12 時 20 分
場 所	うじ安心館 3 階ホール
出 席 委 員 (敬 称 略)	部会長 多々納 裕一 職務代理者 森 正美 委員 岡田憲夫、野田崇、小出純子、後藤正明
議 題	1. 全体構想パブリックコメントの結果について 2. 地域別構想 (部会原案) について 3. まちづくりオープンハウスについて

会議概要

部 会 長	「全体構想パブリックコメントの結果について」事務局より説明を。
事 務 局	資料説明
部 会 長	ただいまの説明について意見・質問等あれば
委 員	8 ページの 30 番の回答の中に少し環境配慮であるとか、そういう回答を入れられたほうが話がずれないんじゃないかなと思いました。都市マスなので、エネルギー問題とかそういうところにはそんなに踏み込んだ話になっていないですけども、質問の意図はたぶんそういうことをおっしゃっているので、持続的とか、そういう言葉が少し回答に入っていたほうが良いと思う。公表したときに、これだと聞いていることに答えられてないという誤解が生まれるんじゃないかなと思いました。
委 員	率直な感想で言わせていただくと全体的に A と聞かれてるのに C と答えるのが多い気がする。例えば 30 番の「成熟型社会の意味する内容を示していただきたく」と書いてあるので、成熟型社会とはこういうことで本文中に記載していますと書いてもらうことでよくて、それで、関連するところでこうですと書いてもらえばいいんですよね。もし必要なら、今の環境の議論を補足されてもいいと思います。
委 員	回答に関しては、少しつなぎを入れて、「こういうことはこうです。ですから具体的にはこう」ということで、話をちゃんと受けた上で回答するというようにされると、だいぶ印象は変わると思います。ソフトに一言、二言意見を付ける言葉を入れて回答したほうがいいのではないかな。先生方もご提案があったら、そういう表現をご提示いただいて、マイルドにしたほうがいいのではないかなという気がします。 36 番は結構大きい問題だと思っていて、市街化調整区域をどうするんだということ、接点問題なんですね。これは、市街化調整区域でもいきなり市街化調整区域の外になってしまう、あるいは市の管轄でなくなってしまうということで、ごみ問題だとか、今はソーラーパネルなんかも大騒ぎしている。そういう隙間が問題になっていることがいっぱいあると思う。少なくとも、われわれはそのことに気付いているということ、何らかの形で、どこかで表現するというのが、言葉を足しておいたほうがいい。これは間違いなく、特に山間部では必ず出てくる話です。そうでなくても住宅街の際でこういう問題が起こっています。皆さんから話を聞かれるときに、こういう指摘は結構出てくるんじゃないかと予想されますので、留意が必要かなと思

	<p>ました。</p> <p>少なくとも、そういう質問が出てくるということはきちんと織り込むべきだということ。いろんなご指摘が具体に出てきて、それは織り込めるものと織り込めないものはそれぞれのところで出てくると思われますが、具体的に表現を変える必要はないにしても、この問題をわれわれは認識してるということを、どこかでメッセージとして出しておく必要があるかなと思いました。</p>
委員	<p>市街化調整区域と市街化区域の区分をどうするかという話は、ずっと議論されていて、特にこの質問の内容は、すごく切実に、地域の方が書いてらっしゃるんだらうなというふうに推測がされるものなので、今おっしゃったように、現時点では市街化調整区域と市街化区域の目的を変えないということで、回答としては間違っていないんですけども、ここが強く出てしまっているんで、印象としては分かっていないと取られてしまうと思う。地域の住環境とかまちづくりの状況というのが変化してきているということは十分に認識しているということを、最初にむしろ書いていただいて、その上で、ここに書かれているような、今後どういうふうに地域の実情に合わせた地区計画その他の手法の活用について取り組んでいけるかというのを、地元とともに検討を進めていく。ただ、大きな枠組みとしては、こういう考え方を記載しているというように、後付け的に書いたほうがいいかなと。一回受け止めて、それから回答するという順番に変えていただだけで、同じメッセージなんですけど、分かってはいるんだけど、グランドルールの変更をするというところまでは議論が成熟していないということなんだと思います。</p>
委員	<p>38番のところで、やってほしいことは何かという同じこと書いておられて、課題として指摘されてる。さっきの資料置き場のとこの話に焦点を置いて38番は問題を指摘されてますが、課題として挙げられてるのは「住民自らが作成する地区計画により規律ある住宅建設を可能にし、定住人口を増やして住民自らの手で壊れた自然を修復させるとともに、活力あるまちづくりをする」と。「そのことに行政が手助けをすることが切望される」と書いてあり、それをやるうとしてるのではないですか。そうであれば、そのことをきちんと書いたほうがいい。そういう答えをちゃんと返さなきゃならない。</p> <p>こういう取り組みを進めてる。そのことを目指してこんな文章も書いてるというふうにした方が良さそう。そういう具体の、それぞれの指摘されてる問題がありますね、それに対応する、まず受けが何も無いから、とても分かりにくいんです。だから、それを受けてもらえれば、今の個別のところの話については方向性としては間違いではないのだろうと思う。</p>
部長	<p>「地域別構想（部会原案）について」、「まちづくりオープンハウスについて」事務局より説明を。</p>
事務局	<p>資料説明</p>
部長	<p>ただいまの説明について意見・質問等あれば</p>
委員	<p>地域づくりのテーマについては、基本的には前回までに出てましたけれど、前マスタープランのときとそんなに大きくは変わっていない。それでほんとにいいかという議論で、分析結果に基づいてこういうテーマをどう設定するかは、住民参加型で考えれば、一番重要なポイントだと思います。そこについては、テーマという形にもならず前のほうに付いたのを、今修正</p>

	<p>してもらってここに持ってきている。これを、シールアンケートという形ではあるんですが、オープンハウスの中では皆さんからご意見頂く主要なポイントとして捉えていただいているということですね。</p> <p>シールアンケートがいいかどうかはまた別の話だと思う。直接書き込んでもらったり、どのぐらいの大きさが取れるか分かりませんが、一個ずつを模造紙に書いたり、そこに付箋で手で書くのもいいかもしれない。</p> <p>シールアンケートをやるんだったら今度は逆に、地域ごとにそんなに違わないほうが良いかもしれない。その結果、こういうのになりましたというほうが良いかもしれない。</p>
委員	<p>質問というか、気付いたことなんですけど、オープンハウスの雰囲気はどんな感じになるんでしょうか。それから、意見交換会は何人ぐらい出席されてどのように説明される予定なのでしょう。</p>
事務局	<p>オープンハウスについては、初めての取り組みで、どれぐらいの方が参加されるかというのは分からないところもあるんですけど、今までの意見交換会の中ではそういう場で発言しにくいという方も多く見られたので、オープンハウスみたいに自由に来れる場を用意すると、そういう方々の意見の掘り出しができるのではないかとこのように考えております。</p> <p>説明会のほうに関しては、いつも地域に入ると一定の人数来ていただいておりますので、多い所ではだいたい50～60人から、今までの説明会のイメージでは20～30人ぐらいかと想定しております。過去に都市計画道路の見直しで各地域を回ったときもそれぐらいの感じでしたので、その程度の人数を想定しております。</p>
委員	<p>ここに書いてある内容と、それからそのときに書き切れなくてご説明される内容というのが出てくると思うんです。そのときに先ほどの冒頭のご意見に対する回答というのは、準備されたほうがいいんじゃないのかなと思います。先ほど議論のあった市街化調整区域、それも、地域によって出てきますよね。地域によって市街化調整区域の問題点が違いますから、それぞれについてどうかという説明を、少し準備されてたらどうなのかなと。</p> <p>パブリックコメントで、天ヶ瀬ダム周辺の観光開発の話も書かれてて、それに対する回答が、仕方がないのかもしれませんが紋切り型の書き方で、実際にお聞きしたいことへの回答というのをそれぞれ、このオープンハウス、意見交換会に合わせて準備されておかれたらどうでしょうか。</p>
事務局	<p>それぞれの部署で検討している資料がございますので、それをしっかり用意して、その場で説明できるようにしていきたいと思っております。</p>
委員	<p>マスタープランだと、道路がここに、もともとこう計画してあったのがこう変わりますみたいな議論するんじゃないので、ここの地域の将来のスローガンみたいなのをこう考えてますと、こんなことが課題だと考えてます、皆さんのご意見を踏まえて必要な修正をしたいので、ご意見頂けませんかと意見交換ではされたほうがいいと思います。</p>
委員	<p>もちろん、公益として市の観点から見たときと、そこに住んでおられる方のご意見と、それは必ずしも一致するとは限らないですよ。だから、市の考えを通さなきゃならない場面も多分いっぱいあると思うんですが、ちゃんと説明した上で納得していただくという形になればいいんだと思う。だから対話を大事にしてください。</p>

部 会 長	<p>地域別構想のストラクチャーについてはどうでしょうか。まず分析といいますか地域のイメージをして、地域の現状、それから住民が考える宇治市の魅力（何々地域）それから、これからの地域づくりの主な課題、これからの地域づくりのテーマ、地域づくりの基本方針。これらを整理した上で図面が出てくる。こういう立て付けで、基本的には各地区別の方針を書いていただくということなんですがこの方向でよろしゅうございますか。</p>
委 員	<p>構造自体に異論はないですが、地域の現状というところの書き方なんですけれど、例えば63ページを見ますと、土地利用でホテルが撤退しました。地域の6割を住宅が占めている。これは、まさに現状なんですけれども、まちづくりの連携が必要ですか何が必要ですというのは、今後こうする必要があるということなので、これは現状とは違う今後の課題ではないか。そのように見ると、現状認識と今後の課題が混在していて、ちょっと分かりにくいという感じがしました。まちづくりの連携が不足していますと、そういう書き方だったらいいのではないのでしょうか。</p>
委 員	<p>連携が必要だと書くよりも、むしろ「隣接したまちづくりの課題があります」ぐらいの書き方だったら課題になってしまう。だから、「京都市と隣接しており、他の地域や周辺のことも考えたまちづくりが必要な地域です」と書いてあれば良いのではないかと思います。</p> <p>そういう観点から見たときに、全部見てもらったほうがいいんですが、どうでしょうか。ストラクチャー自身、特に現状のところ課題みたいなものを書かれているところ、あるいは取り組み方針が書いてあるところがあるので一度チェックしてください。</p>
委 員	<p>61ページに「当初策定時」とか「今回」とか書いてあるんですけど、当初といっても20年前の話で前のものに引っ張られ過ぎてるんですけど、切り替えたほうがいいんじゃないでしょうか。それこそ2000年に策定して、2007年にさっきのホテルが撤退して、もう15年たっている。ずっと20年前の話をしてるのに、ゴールは2040年というのは違和感がある。</p> <p>地域別構想で、61ページの下のところ、今回、連携拠点とか、拠点の考え方を大きく変えたということがある。例えばそういう内容が、63ページの六地蔵地域の中にどういふ地域として位置付けられてるのかという説明がない。例えば一番上の右側のところに、地図はあるんですけど、この地図は場所だけ示してるだけで、例えば連携拠点は、連携拠点としてあるだけで、位置づけが何も書かれていない。</p> <p>地域に入ってその地域のことを聞くとき、その地域のことだけを聞くのではなくその地域が市の中でどんな位置付けにあるかということ意識してもらう必要がある。地域別構想のときに、その地区のことだけを説明するのではなく、宇治市全体の中での位置付けを一言書き加えておく必要があるのではないかなと思う。64ページのところに、今回新しく加えられた、六地蔵地域の人が宇治市の魅力をどう考えてるかというレーダーチャートがあって、これは、別に六地蔵地域がこうだといっているわけではなく、宇治市の中で何がいいかを聞いていて、それを六地蔵地域に住んでる人がこう思っている。ある意味、六地蔵地域の人が宇治川のある宇治地域とかに来て、それを楽しめればいいわけです。宇治市全体の中でのその地域の位置付けが入ったほうがいいと思います。</p>
委 員	<p>全体構想の続きで地域別構想が出てくるのだから、前段として、都市全体の構想図が出てきますよね。今度はこれを、オープンハウスなどで地域の人たちが見られるときには、もう少しコ</p>

	ンパクトに、都市づくりの目標とか将来都市構想図、その後部門別方針が出てきています。
委 員	分かりました。さっきの資料3の6ページの、将来都市構想図がこのページの頭には付いているということですね。それが理解されて見ていただく事が可能であれば、書き込む必要はないのかなと思います。
事 務 局	今回の資料は、60ページから始まっておりませんが、前段には全体構想がありまして、その中に連携拠点の説明は出てきます。しかしながら、皆さんがおっしゃる通り変わっているポイントですので、地域別構想の中でもそこに触れておいて、市民の皆さんが分かりやすいようにする作業は必要だと思いますので、その辺りを検討させていただきます。
委 員	例えば六地蔵地域の連携拠点は前のときは広域拠点ですよ。だから、ここの地域にある商業集積とか、あるいは文化、施設等の集積を他の地域でも利用可能になるように考えたほうがいいような地域ということで、むしろ重点的な箇所だというイメージですよ。ところが今回は、そういう集積があまりなくなってしまったので、そういう機能を他に移転するという意味ではあまりない。 京都市と近く交通結節点ではあるから、その良さを生かしていくことをもう少し考えていきましょうというふうになってる。その辺のことについては、どこかに、そこが分かるようなことを書いておいたほうがいいと思います。地域の現状とは別の、圏域のイメージなのか生活圏のイメージなのかもしれない。
委 員	レーダーチャートについて、六地蔵の人は宇治市全体の人から比べて交通利便がいいというところを少し高く評価してる。それはたぶん、自分のいるところは便利だと、これが特徴なのではないか。つまり、そうとは言い切れないけれども、たぶんこれが一つの特徴じゃないかと思う。だからなおさら、統計的に有意性を確認せよというのはあるが、いずれにしても、ここで言える一番のポイントはこうかなと。ただ、要はこれを何のためにここに持ってきているのかということ、一つは、市民全体の議論としてどこか別のところに置いておいて、そして、その中でも地域によって評価は少しずつ違いますねということ、全体のところでやるのか、それとも、そうでなければこれを持ってきて、一つユニークなところが見えるということに注目してください。もちろん参加された方はまた違うという意見も出されるかも分かりませんが、そういう使い方をされるのかなとは思っただけです。
委 員	全体の地域別を見るなら、レーダーチャートを並べてみると何となく特徴が見えるということと分かる。それこそ槇島は、医療施設の充実について評価が高いとか、そういう意味では、使いたくなる気持ちも分かるが、分かりやすくして使ったほうがいいのではないかな。 だから、宇治市の魅力について聞いてるんだけど、地域の魅力と実は答えが重なっているもので、地域の人に地域の魅力を聞いているものがちゃんとあれば、それと並行して並べるとよかったのではないかな。
事 務 局	宇治川とか景観とかいうのは、市全体の視点が色濃く出てるのかなと思っております。ただ、先ほどおっしゃられた交通結節点としての評価であったりとか、日常生活の利便性というところは、自分の住んでいる地域のほうに視点があると思う。 自然などについては差がないんですけど、公共交通であったりとか買い物であったり、医療に関しては差が出てきているというところがあるので、そういったところをもう少し見たほう

	<p>がいろいろかなと思いました。</p>
委員	<p>これ、2通り解釈があって。要するに住む人がどういう志向を持ってるか、今ここで説明、解釈すると。もう一つあるのが、その人たちが何をみて市を判断してるかっていうのの両方あるんです。</p> <p>ここでいろいろと、特にそれは宇治市とか宇治茶とか明らかに、宇治全体シェアされてるようなものであったら、それを見るって決まってるからいいんですけど。例えば交通とか医療は、どこに住んでるかによって、それは医療が充実してると思うか思わないか違うんですよ。見えてる医療の景色や距離も違うから。だから、そういうふうになるので、そこをどっちかといっっても一概にも言いかねるところがあるんです。だから、解釈が結構難しい図なんですよ、そこを理解していただいてレーダーを見た方がいい。</p>
委員	<p>オープンハウスのときに、皆さんにこのレーダーチャート自身に近いことをもう一度聞くことはできないんですか。そうしたら、一種の補完関係になります。これは、今まで手に入れられてたデータでこういうことをいってるけど、皆さんからご意見を頂いて、さらにこれをローカルの情報を加えたものとして比較してみたりすることが皆さんと話してる意味もある。その一つの引き出し方として、こういうこと自身をお尋ねするっていうのも一つあるかなと思います。</p>
委員	<p>私はオープンハウスに関してのメリットは、出会って来てインタラクティブにいろんなやりとりができるということの良さ。もちろんデジタルでのやり取りもできないということはありませんけど、やはり会場に来て、直接フェース・ツー・フェースで反応し合って取れる情報とか分かる情報はいっぱいあるので、それを生かすべきなのかなと思う。</p> <p>この資料は、例えばですが、これを見てどう思うか、私はちょっと違うように思うとかそういうふうな反応は、別に統計的にどうかということではないですけども、付加的な情報として地域の方からそういうふうないろんな感触を得たという意味で、オープンハウスをやることの一つの副次的効果と解釈することもできるのではないかな。そういう意味で、議論を引き出していく一つの材料として、このレーダーチャートは使えるかなと思いました。</p>
委員	<p>山間地域は、都市計画の直接及ばないというのか、ある意味で都市計画の空白地帯みたいなところで、いろいろ難しい問題あるんだけど、空間計画として見たときに、こういうことで皆さんが色々工夫してやっておられることがある。今出てきた話というのは、ほとんど先ほどの他の市街地の周辺部である市街化調整区域で起こってることと、ものすごく関わりがある。</p> <p>山間地域で色々やってる参加型とか自主的に行われているような学びの体験みたいなものを他の地域で学んでおられる皆さんと共有するような、そういうふうな促しというのも、今後あっていいのではないかなと思う。</p> <p>例えば、先ほどの資材置き場のような大きな問題もあって。要は何が言いたいかということ、この種の問題を解決するには、地域の人たちがきちんと考えて点検して、そして領域が違う、職種が違うものについては、どうということ掛け合っているのかというようなことを含めて誰かリーダーシップとしてやっていって、アクションを促していくというアプローチが不可欠です。ですからそういう意味で、逆にここでやっておられるいろんな取り組みというのは、今</p>

	<p>後都市計画区域が抱えるような問題を先取りしてるようなところがいっぱいある。しかもその中には、行政だけじゃなくて住民の人が積極的に点検するとかアピールするとかいうことも含めての、そういうアプローチが不可欠だと。だからそういう意味で、ここで解けないこの問題を解いていく上での学び体験を持っておられるところとして、積極的にそういう人たちのいろんな経験を他のところでも共有し合うような促しというのか。それは都市計画だけではできないと思うんですけど、総合計画として本来、そういうこと、ほんとは考慮すべきだと思いますし、きょう出てきた、答えられない難しい課題も、そういうところにも一つの糸口があるんじゃないかなと思います。だからそういう意味で、いろんなご意見がたぶん出てくるとは思いますけど、できるところはやると同時に、皆さんいろいろ取り組んでおられる経験をもっと他のところにも生かしていくような、そういう交流というのか、そういうことをされるというのが、私はこの山間地域の人たちのところへに入ってワークショップをしたりいろいろすることの一つの意味かなと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>オープンハウスについて、できたらシールアンケートではなくて、個別のところについて意見を書き込んでもらえるようなことをやってもらったらいいんじゃないか。だからもし、先ほどのレーダーチャートのことも気になるようだったら、これに関連するもので、この地域に当てはまるものは、そこをむしろシールアンケートでやってもらってもいいのではないかな。当てはまると思うのはどれか、50人來られた中でシールアンケートの結果10個以上付いたのはこことここでしたとか。そうしたら、この地域の方々がこの地域についてこう思ってることはこのぐらい事実ですと言えたというふうにしても、ちょっと客観性はあるかもしれない。そういうところに來られた方々のデータベースにこうして作りましたというのを素直にそのように言うしかないですけど、それとこれと、両方あったらいいんですね。</p>
<p>委員</p>	<p>シールアンケートですが「何々を目指します」、「歩けるまちを目指します」って書いてあるところにシールを貼るよりも、具体的に歩道を広くしてほしいとか、植え込みを増やしてほしいとか、ベンチがあると良いとか。そういうことができますというのは行政の立場では言えないと思うんですけど、「目指します」って言われても、どうしようかとなるので、具体的に何かがあればシールを貼りやすいかなと思いました。それを一個一個考えるのも大変かもしれないんですが、でもこういうことが、私たちがこういう暮らしを目指してるんだっていうのが思い描けるような、一般の人たちが具体的に考えられるような何か欲しいかなと思いました。</p>
<p>委員</p>	<p>「利便性の高い活力あるまちづくり進めます」と書いてあるとして、何をしてほしいんやっことで、「整備の方向性」とかって書いていて、その何個か使って、「駅前広場の改善」とか幾つかのメニューがあるとして、そのメニューの中のどれかを選んでシール貼るとか。逆に、そこでの地域の課題というところの中で、思ってることはこののにぎわいと活力とかいう観点にあるんなら、そこについてまた貼るとか、もうちょっとブレークダウンしたらどうですかということですね。</p>
<p>委員</p>	<p>意見交換会は、テーブルの上でこうやっておいて同じシールを貼って、全テーブルに置いてこうやって貼りながら話したりしたら、結構盛り上がると思いますよ。意外と、手を動かすと盛り上がるんですよ。それで、ワールドカフェにして、一人の人が固定してしゃべり続けられないよ</p>

	<p>うに、体を動かしたほうが確かにいいと思います。意見交換会で対立的になっても、テーブルを動かさないといけないようにして。どんどん話題が転換していくっていう。例えばテーマごとのテーブルにしといてどんどん入れ替わる。来た人同士も交流して、たくさん意見交換をしてもらおうといいのではないかなと思います。</p>
--	--